

チスタメット錠 200mg
生物学的同等性に関する資料

鶴原製薬株式会社

チスタメット錠 200mg と標準製剤との血中濃度比較による検討

1. 緒言

チスタメット錠 200mg と標準製剤との生物学的同等性を検討するため、両製剤投与後の全血中シメチジン未変化体の濃度推移を比較した。

2. 実験方法

(1) 使用薬剤

チスタメット錠 200mg

標準製剤

(2) 対象

あらかじめ健康診断を実施し異常の認められなかった成人男子で、事前に文書による同意を得られた12名を対象とした。

(3) 投与量

製剤試験により同等と認められた両製剤1錠ずつ（それぞれシメチジンとして200mg含有）を経口投与した。

(4) 投与方法

健康成人男子志願者で12名を2群に分けクロスオーバー法を用いて行った。薬剤の投与間隔は1週間とし、空腹時にそれぞれ医師の問診を受け、1群にはチスタメット錠 200mg、他群には標準製剤を経口投与した。

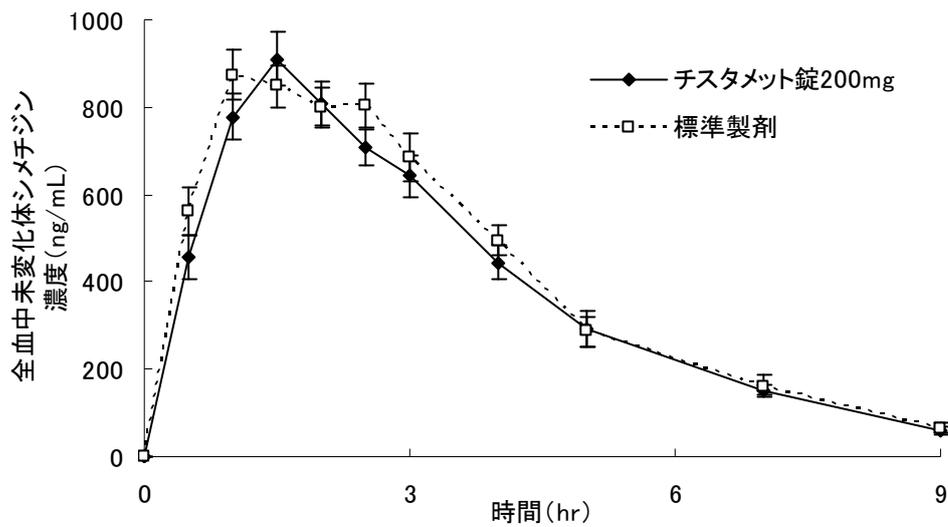
(5) 採血時間

投与前、0.5時間、1時間、1.5時間、2時間、2.5時間、3時間、4時間、5時間、7時間、9時間

3. 結果

両製剤とも吸収は速やかで、全血中濃度は投与後1~2.5時間目に最高濃度(680~1290ng/mL)に達した後、徐々に減少した。

得られた薬物動パラメータ (AUC、C_{max}) について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.8) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。



平均値 ± S.E.、n=12

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₉ (ng · hr/mL)	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (hr)	t _{1/2} (hr)
チスタメット錠 200mg	3562 ± 111	938 ± 53	1.6 ± 0.1	2.0 ± 0.1
標準製剤 (錠剤、200mg)	3767 ± 181	1009 ± 36	1.7 ± 0.2	1.8 ± 0.2

(Mean ± S.E.、n=12)

血中濃度並びに AUC、C_{max} 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。